

291  
の  
お  
便  
り

国立駅南口駅前デザインアイデアコンペ応募作品集

発行 国立市

# 291 のお便り

国立駅南口駅前デザイン  
アイデアコンペ応募作品集



Kunitachi  
City in the  
future

291  
Letters

からの国立駅

にとって

台流注意

design

idea

competition



## もくじ

004	もくじ	056~	子ども部門作品 1
005	はじめに	072	コラム2 旧国立駅舎古材再利用プロジェクト
006~	くにたちの歴史	074~	子ども部門作品 2
014~	コンペの概要	090~	コラム3 東京オリンピック聖火リレー隊
016	評価委員長コメント	092~	子ども部門作品 3
017	シンポジウムの様子	111	コラム4 旧国立駅舎と景観
018~	優秀作品/大人部門	112~	駅前広場の活用事例とこれから
028~	優秀作品/子ども部門	114~	書籍紹介
038~	コラム1 時計塔	116	おわりに
040~	大人部門作品	117	奥付

## 作品集電子書籍のご紹介

「国立駅南口駅前デザインアイデアコンペ応募作品集」は、国立市のデジタルライブラリーで公開しています。作品をもっと細かく見たい方は電子書籍での閲覧をおすすめします！

※デジタルブック上でクリックすると、最大4倍程度まで拡大することができます。

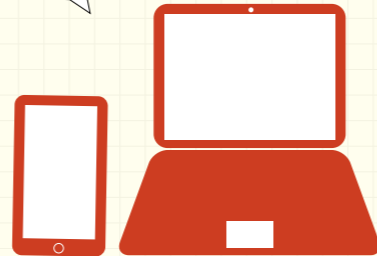


▶  
こちらから

くにたちデジタルライブラリー 検索

<https://city-kunitachi-tokyo.meclib.jp/library/public/book/list>

スマートフォンでも！  
パソコンでも！



## はじめに

国立駅は1926年に開業し、赤い三角屋根の旧駅舎は多くの市民の皆様にとって、深い愛着があるまちのシンボルとなりました。それから間もなく100年を迎えます。

その間、旧駅舎はJR中央本線連続立体交差事業に伴い解体され、市指定有形文化財指定を経て2020年に再築されました。旧駅舎の東西の土地については、「広場として保全してほしい」という市民の皆様の強い想いを受けて、JR東日本と市が用地を交換し、2023年2月に市の土地となりました。

そして現在、この土地（旧国立駅舎東西広場）と円形公園、南口ロータリーを併せて、国立駅南口駅前広場として整備を進めています。

皆様の想いが集まった「くにたち」らしい駅前広場とするために、2022年10月から12月にかけて国立駅南口駅前デザインアイデアコンペを実施し、多くの方々にご応募いただきました。広場の機能や役割、そして景観や雰囲気について考えられたもの、緑豊かな植栽を提案したもの、また、イベントや憩いや交流など駅前広場を活用するシーンを想定したものなど、市民の皆様や利用者の方々の視点を活かしたさまざまな素晴らしいアイデアが291作品集まりました。

この冊子は、これらの応募作品をまとめ、一覧できるように制作した作品集です。この冊子を多くの方々手に取っていただき、国立市の将来を想像しながら、これからの魅力的なまちを皆様と一緒につくっていくことができましたら幸いです。引き続きご協力を賜りますようお願い申し上げます。

末尾になりますが、本コンペにご応募いただいた皆様、シンポジウムにご参加いただいた皆様、そして評価委員会の皆様に、厚く御礼申し上げます。

国立市長 永見 理夫

# History of Kunitachi

くにたちの歴史



甲州街道沿いの家並み（くにたち郷土文化館常設展示室復元模型）



谷保天満宮



国立開発時の立木（松）の計測（現在の一橋大学付近）

## 1889

### 谷保村の誕生

江戸時代、谷保村など国立市の前身となる地域には、現在の「甲州街道」を中心に民家が立ち並んでいました。本来、谷保の「谷」は「ヤツ」と読み、湿地帯という意味を持っているとも言われ、この地域が水田に適した条件にあったと考えられます。古くから稲作などの農業が盛んで、農業の他には養蚕ようさんを生業ともしており、日本橋を起点に甲府を

経て、信州で中山道と合流する甲州街道の街道沿いには、商業や手工業を営む家もありました。1889年、谷保村・青柳村・石田村飛地の3村が合併し、国立市の前身となる「谷保村」が生まれました。

この当時、現在の国立駅周辺には雑木林が広がっており、一橋大学の松林にその面影を見ることができます。

# 1926

## 4月1日、国立駅開業

旧国立駅舎は、国立大学町を開発した箱根土地株式会社が建物をつくり、鉄道省に寄附したものです。こうした民間が建築し、寄付した「請願駅」の現存例は珍しく、2006年の解体前は、都内では当時の「原宿駅舎」に次いで古い木造の旅客駅舎でした。国立駅舎は“まちの顔”として位置づけられたようで、東京商科大学（現・一橋大学）と箱根土地株式会社が1925年に交わした土地交換契約に関する覚書には、駅舎を入念に建築すること、駅前には相当の広場を設けることがうたわれています。「赤い三角屋根と白い壁」という洋館風の駅舎は、“文化的なまち・国立”のイメージづくりの役割を期待されたようで、箱根土地株式会社による国立大学町の広告にも写真が大きく掲載されました。



完成した国立駅旧駅舎 1926年 / 明窓浄机館所蔵



国立駅開業式典（来賓祝辞） 1926年 / 明窓浄机館所蔵

現在の国立駅前はロータリーになっており、駅前の広場に人が立ち入ることは難しいですが、国立駅開業当初は広場の中を自由に行き来することができました。国立駅開業式典も、この広場の中で開催されました。開業日から4日間行われた祝賀会では、餅まきや宝探し、遊園地「新宿園」の白鳥座童話劇など、多くの催し物が行われ、大盛況だったようです。

## すいきんしゃ 駅前広場に水禽舎！？

1926年頃の駅前広場には、当時珍しかった水鳥たちを飼育していた水禽舎がありました。この水禽舎は、1924年から1926年まで箱根土地株式会社が経営していた遊園地「新宿園」の設備を、その閉園に伴い国立駅前に移設したものでした。その後、戦時下による鉄の供出で水禽舎のケージが撤去され、非常用水の貯水池とするために池が掘り下げられたようです。その後は、「円形公園」として歩行者が自由に出入りできる広場として、人々の憩いの場となっていました。

水禽舎のある国立駅前の様子 1926年



## 幻の展望台計画！？

「国立駅前展望台」と題された図面があります。この図面からは、現在の円形公園部分に、高さ180cm程度の展望台を設置する計画があったことがわかります。展望台の側面には、芝生や草花を用いて「国立町」の文字を表現しようとしていました。この展望台計画のために、総額2,000円（現在の金額で大体300万円以上）の予算が見積られていましたが、結局この計画が実行されることはなく、“幻の展望台”として計画資料のみが残されています。



国立駅前展望台図面 1925年頃

# 1930

## 東京商科大学の移転

1923年の関東大震災で甚大な被害を受けた東京商科大学（現・一橋大学）が、被害の大きかった都心部から比較的被害の少なかった隣接周辺地域への移転を計画します。1927年に専門部が、1930年には本科が国立へと移転してきます。



現在の一橋大学

# 1951-1952

## 文教地区指定までの道のり

1951年、3年余りに及ぶ町名問題の討議を経て「国立町」が誕生しました。同時期の1950年には朝鮮戦争が勃発し、隣接する立川市には米軍基地が置かれ、多くの米兵が進駐してきます。これに伴い、簡易旅館や飲食店などが国立駅周辺にも出現し、米兵相手のいかがわしい商売などによって、まちの風紀が乱されることを危惧した住民や一橋大学の学生を中心に、東京都の条例による文教地区への指定を目指す運動が起こります。



国立文教地区の指定を紹介する看板

一方で、まちの経済的発展に悪影響を与えることを懸念した指定反対運動も展開し、まちの将来をめぐって住民同士による運動が過熱していきました。町議会における激論の応酬の末、文教地区指定を議決し、1952年、国立町に文教地区が誕生しました。

文教地区指定の運動は、単なる歓楽街反対の運動ではなく、大学町開発からの学園都市としての理想の姿を求め、住民がまちづくりを考えた運動であったと言えるでしょう。

# 1967

## 人口増加で国立市誕生

当時は、市制を施行するにあたって、人口が5万人となるのが、ひとつの目安とされていました。1965年12月、富士見台団地の完成によって人口が5万人を突破し、1967年1月1日に待望の「国立市」が誕生しました。

1月23日には市制記念式典に引き続いて、午後から「祝賀市中パレード」が行われ、約60台の自動車が2コースに分かれて市内を行進しました。



市制施行祝賀パレード 1967年

# 2006

## JR中央線の高架化に伴い 駅舎解体

1926年に創建されてから80年もの間、人々が行き交う姿を見守ってきた旧国立駅舎ですが、2006年にJR中央線の立体高架化工事に伴い解体。多くの人々が解体を惜しむ中、駅舎としての役割を終えました。

旧国立駅舎解体直前の様子



# 2009

## 「国立駅周辺まちづくり基本計画」策定

JR中央線の立体高架化事業は、高架下や南北市街地を結ぶ交差道路が整備されるなど、まちづくりの大きな転換点でした。そこで、立体高架化事業を活かして魅力

的なまちづくりを進めるために、「国立駅周辺まちづくり基本計画」を策定しました。この計画に基づき、旧国立駅舎再築や国立駅周辺整備を進めることになりました。

# 2020

## 生まれ変わった旧国立駅舎

旧国立駅舎は、創建当時と同じ姿で国立駅前に再築され、「まちの魅力発信拠点」という新たな役割を担う公共施設として生まれ変わりました。

の情報発信拠点にもなっています。広間は待ち合わせ場所として滞在できるだけでなく、誰でも演奏できるプレイピアノが設置され、市民によるさまざまな催しやイベントも行われます。

現在は広間やまち案内所、展示室などがあり、国立市



現在の旧国立駅舎



旧国立駅舎の広間

# 2023

## 土地交換契約を締結

国立駅周辺のまちづくりについて、国立市と東日本旅客鉄道株式会社（JR東日本）による協議が行われてきました。2023年には土地交換契約を締結し、旧国立駅舎東西の土地を国立市が取得しました。今後、この土地（旧国立駅舎東西広場）と円形公園、南口ロータリーを併せて、国立駅南口駅前広場として整備を進めていきます。



土地交換図

東西広場の整備イメージ

## これからの国立駅南口駅前広場 *The station square of the future*

### 整備の基本的な考え

2021年11月、「東西広場・円形公園の整備を一緒に考えよう!」と題して市民アンケートを実施しました。アンケートに寄せられた意見をもとに、2022年7月に「旧国立駅舎東西広場・円形公園整備基本方針」を策定し、「まち」「広場」「活動」という3つの視点を決めました。これまでの100年を、これからの100年へとつなぐため、「くにたち」の顔となる国立駅南口駅前広場を目指します。

### 3つの視点

- まち**  
くにたちの拠点となる広場に
- 広場**  
市民が誇りに思う誰もがくつろげる広場に
- 活動**  
いろんな活動のできる広場に

### みんなで作る駅前広場

そしてさらに、2022年10月～12月、国立に関わる多くの人々の思いを込めた、「くにたち」の顔となる広場の実現を目指して、“国立駅南口が地域のための場所としてこうなったらイイな”というアイデアを募集する「国立駅南口駅前デザインアイデアコンペ」を実施しました!

# 国立駅南口の広場がこうなったら イイなを考えよう！

皆様の思いを集めた「くにたち」の顔となる広場の整備の実現を目指して、国立駅の南口が地域のための場所として、こうなったらイイなというデザインのアイデアを募集しました！



## コンペの概要

下記のとおり実施しました。

### 01. 対象者

子どもから大人までどなたでも

### 02. 応募期間

2022年10月12日(水)～12月12日(月)

### 03. 応募方法

東西広場および円形公園を中心とした国立駅南口駅前広場のアイデアを、国立駅周辺整備課 国立駅周辺整備担当まで郵送(当日消印有効)、メールまたはご持参ください。

### 04. 対象範囲

東西広場及び円形公園を中心とした国立駅南口駅前広場

### 05. 評価方法

整備基本方針で示した整備目標をもとに、次の視点で評価を行います。

#### 〈評価の視点〉

- ・国立駅前としてふさわしい空間か
- ・ワクワクするような楽しさや生活の豊かさを感じることができるか
- ・広場として新しい価値が創造されているか
- ・さまざまな人に配慮し、使うことができない人がいない空間となっているか
- ・対象範囲だけでなく、その外側との関係性について考えているか

### 06. 賞及び賞金

入賞5～10作品程度、賞金総額50万円(18才未満の場合は、図書カード5千円分)



## 委員長コメント



どうめん たかひろ  
委員長 堂免 隆浩

私は都市政策を専門にしております、そのような立場で今回の委員会に参加させていただきました。今回応募してくださった皆様一人ひとりに改めて御礼申し上げます。今回の評価は、旧国立駅舎東西広場・円形公園整備基本方針の3つの整備目標、7つの整備のポイントを基に実施しました。今後の国立駅南口駅前広場整備を進めていく上でも、整備目標、ポイントを意識し、一貫性のある取り組みが大切です。また、本コンペでは、「駅前こんなことができればいいな!」のアイデアがたくさんありました。これらのアイデアを今後の広場整備に向けてできる限り取り入れてほしいです。実際に整備すると、駅前ではできないこともあります、「こんなことができればいいな!」のアイデアを大切に、他の場所で実現することも考えていけると良いと思います。

そして、デザインアイデアコンペが終わったら、あとは市に任せるのではなく、市民やまちに関わる人を巻き込みながら国立駅前の整備が実現できるように進めていきましょう。

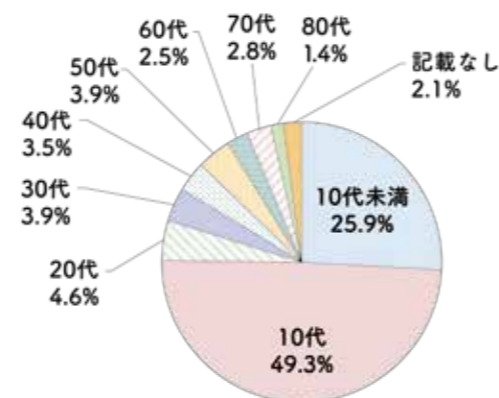
## 評価委員

- 植田 瑞昌(副委員長) 日本女子大学 家政学部住居学科 助教
- 大野 孝儀 国立市教育委員会 委員
- 桂 耕史 国立市商工会 会長
- 桑原 雅美 株式会社 JR 中央線コミュニティデザイン 国立駅長
- 鈴木 直文 一橋大学 大学院社会学研究科 教授
- 堂免 隆浩(委員長) 一橋大学 大学院社会学研究科 教授
- 二井 昭佳 国士館大学 理工学部理工学科 教授
- 細田 直哉 社会福祉法人くにたち子どもの夢・未来事業団 幼児教育推進プロジェクトマネージャー
- 三友 奈々 日本大学 理工学部土木工学科 助教

(敬称略・五十音順) (役職はコンペ実施当時)

## 応募状況

今回のコンペには 291 作品の応募がありました。その中の 215 作品が 18 歳未満の方からの応募でした。291 作品の中から評価委員により選定した 18 作品（子供部門 9 作品、大人部門 9 作品）が優秀作品となりました。



# 表彰式・シンポジウムを開催しました!

表彰式では、旧国立駅舎東西広場・円形公園デザインアイデアコンペ評価委員会により選定した、子ども部門（18歳未満）から9作品、大人部門（18歳以上）から9作品の合計18作品が優秀作品となりました。



2023年3月21日に、国立駅南口駅前デザインアイデアコンペ表彰式及びシンポジウムを開催しました。当日は多くの観覧者に見守られる中、大人部門・子ども部門の各作品の制作者それぞれから作品に込めた考えや思いをお伝えいただきました。

次のページから、多様で魅力的なアイデアが詰まった作品をご紹介します。ぜひ、南口駅前の将来を想像しながらご覧ください。

# 優秀作品 大人部門

## みんながのんびりお散歩したくなるまち 井上さやか

国立の良さがたくさんちりばめられたまちづくり。

① 学生さんが多いので映える場所や食べ物を SNSでたくさん発信してもらう  
 ・馬前の閑院や立川国際音高、国立21の建て替えなど古い建物で新しい子育て世代の移住も多いため、子育てに関心のある親も多いため、イベントや地域との交流も深めるきっかけをつくる。  
 ・一橋大学のキャンパスの自然  
 ・東京体育大学、スポーツでの交流  
 ・音高、深大の場にもなるし、管のいやしにも  
 ・スタバ、カフェを学ぶ など  
 ・空港でやっているような巨大駅馬と宿泊施設に併設

② 東西広場にせきやエムのアップダウンのように、国立やさいや国立の雑貨屋さんのおすずの産品、お菓子屋さんのおすずの商品、パン屋さんのおすずの商品などのセレクトショップをそれぞれテイクアウトでお店を出す。大学通りにイヌやチワワ、猫のいる休憩所なども設置して、お花見やお散歩やお買い物を楽しめるような空間をつくる。シェアサイクルやスクーターを設置して、気軽に入店できるような実店舗前も付かせたい。さくら通りのアートや桜や信保へのアクセスも良くする。

③ 馬前でライブイベントにイキを入れる。オープンにもできるスタジオを作り生演奏などしてもらおう。  
 ・大学通りに向けて木のアスレチックやボルダリング、健康器具なども所々に設置して、くつろぎながら運動も楽しめる場所をつくる。  
 ・アートや自然をテーマにできる場所もあるといい

④ イベントやゴミひろいなど、一橋大学の学生さんやボランティアのボランティアを募集している方々ともコラボレーションがポールのようなイベントの開催もできるといいと思います。ステキなゴミをひろいになるようなゴミ箱もたくさんあるといいと思います。

国立はステキなお店もたくさんあるしステキな風景もあるので、それを活かすの地域、インスタやSNSなどでたくさん発信してもらって国立の良さを知らしてもらえたらいいと思います。くにニッポンがわいっので、もっと人気になると思います！少しでもアイデアがアイデアに立てばいいです。読んでいただきありがとうございます。

国立駅両口のリニューアル楽しみにしてるニヤーン！

デザイン  
 ・木造の国立駅舎とのバランス  
 ・南口の新しい木造商業ビルとの統一感で  
 ・木造が主張りの小さな店舗やイベントスペースなどが並ぶとお客様も入りやすいのでは。  
 ・遊覧車のラコリアや隈研吾さんのデザインのような自然と融合したものが国立の皆さんもほめてくれるのではと思います。  
 ・円形公園は噴水だけとか桜一本だけ、旧国立馬場の邪魔にはならず映えるような景色になるといいと思います。

### 総評 ボランティアなど維持管理の提案がなされている

デザインの提案はありませんでしたが、学生や市民のボランティアの関わり方など、まちの維持管理というソフト面からの提案を評価します。

### 花と笑顔のあふれる町 大谷 和彦 / 渡辺 由紀

おかえりなさいツバメさん。春、毎年南の国から海を渡って  
くにたち駅に来るツバメを見るとほっと心が和みます。そんな  
小さな生きものが棲める環境は私たち人間にとっても住み  
やすい町です。



**総評** ツバメに必要な生態系への配慮や、賑わいを生む空間が提案されている

毎年訪れるツバメに必要な池や緑のある生態系に配慮し、駅前広場の沿道と一体となる賑わいを生む滞留空間が提案されている点を評価します。また、旧国立駅舎の雰囲気とあった絵のタッチも素敵です。

### 国立ストーリー 第1章「ヤマの校門」 笠本 蒼太 / 鶴 蘭 敦也 / 田口 凌介

かつてのまちの記憶である生活風景を継承し、まちを「自然の  
大公園」としての姿を取り戻すために、国立駅前広場に「ヤマ  
の校門」として役割を与え直し、周辺を繋ぎ直しながら  
学生のいきいきとした生活風景を広げる。



**総評** 時間をかけて森を育てるプロセスや空間のあり方が提案されている

学生とともに時間をかけて駅前に森を育てるプロセスや、大学通りとの関係性に配慮した配置、広場を動と静に分け、左右の空間が繋がっている点を評価します。

### 国立駅南口駅前広場 ゆたりろ 小山 浩太郎 / 清水 太幹

アイデアもコンセプトである、『ゆたりろ』は、『ゆったり』と『路(ろ)』を合わせた造語で、ゆたたりと誰もがくつろぐことができる路と広場の駅前空間の計画を表現しています。計画概要としては、国立駅前の狭小空間の中で、路の空間を休憩スペースとして最大限に活用し、路の動線を避ける形で賑わいのための広場空間を確保できるように配慮しています。現況調査をしたときに、国立駅前は着座空間が少なく、旧駅舎以外では落ち着いてくつろぐことができないため、通り過ぎるための空

間になっているため、これを変えて誰もが過ごしやすくつろぐことができる空間を計画したいと思いました。しかし、国立駅前は、周辺の敷地に囲まれた狭小空間という環境から大幅な空間構成の変更は難しいと思った為、既存の路(みち)の空間を最大限に生かし、必要な導線を避ける形で最大限で多機能な広場の展開ができるように計画を立てることとしました。その思考を十分に反映した計画であるかと思っております、ご査収のほど、何卒よろしくお願いたします。



#### 総評 全体的によくまとまっていて、イベント時の使い方も考えられている

広場全体で集いのスペースを設けロータリー機能も含めて考えられており、平時は利用せずともイベント時に何にでも使え、全体的に機能的でよくまとまっている作品となっています。

### くにたちテラス 駅舎と通りを見渡す広場 白木 愛子 / 谷水 まき子 / 谷水 錬

円形広場は外から眺めるだけの場所でした。中に池のあることを今まで知らない人も多いです。国立の顔となる広場のリニューアルにあたり、公園内部を利用できるだけでなく、この立地の価値を活かしたらと考えました。それは、大学通りをはじめ三つの通りと駅舎を見渡すこ

とができるということです。公園から外へ視線を広げること、見えてくること、気づくことが増えてくると思います。公園までの安全なアクセスと公園内部を楽しむ装置、そして少し高くからの眺望を楽しめるよう考えてみました。



#### 総評 三世代が考えた都市を眺める場所として円形公園が提案されている

円形広場から街を眺めることができる発想が素晴らしく、三世代で考えた作品として国立への愛着を感じさせます。



## ステージやスクリーンにもなる貸出備品倉庫

～「備品調達・運搬の問題」を解決し、広場活用の市民参画を促す～ 間瀬 英一郎 / 水木 花

広場の東端に貸出備品倉庫を設置する。倉庫には、広場や旧国立駅舎で催されるイベントや展示に必要な備品（什器・機材）を保管し、市民や団体が無償または廉価で借りられるようにする。これにより、誰もが備品の自前調達や運び込みの苦勞・コストに困ることがなくなり、広場や旧駅舎でイベントや展示を催

しやすくなる。また、倉庫の西側外壁をステージ背景やスクリーンとして活用できるように平滑かつ白色に塗装し、野外ステージや上映会を簡便に催すことができるようにする。これにより、これまでの広場活用では見られなかった文化・芸術を楽しむ人々の姿・風景が新たに生まれる。



**概要**  
旧国立駅舎東端の最東端に貸出備品倉庫を設置する。倉庫には、広場や旧国立駅舎内で催されるイベントや展示に必要な備品（什器・機材）を保管し、市民や団体が無償または廉価で借りられるようにする。

これにより、誰もが（多様な市民や団体）が備品の自前調達や運び込みの苦勞・コストに困ることがなくなり、広場や旧国立駅舎でイベントや展示を催しやすくなる。

また、倉庫の西側外壁をステージ背景やスクリーンとして活用できるように平滑かつ白色に塗装し、野外ステージや上映会を開催しやすくなる。

これにより、これまでの広場活用では見られなかった文化・芸術を楽しむ人々の姿・風景が新たに生まれる。

**ステージに变身する倉庫**  
広場に倉庫の外壁をステージとして活用することは正しくない。そこで、倉庫の外壁を活用し、さらに倉庫内の備品を組み合わせて、市民や団体が気軽にイベントを開催できるようにする。市民にとって、備品が倉庫ではなく「ステージ」として認識されることを目指す。

併せて敷地する旧国立駅舎東端の公共施設では、高層ビルに「多目的ホール」の設置が予定されていた。しかし、敷地の計画では、高層ビルが自然に消滅していった。本アイデアは、高層ビル「多目的ホール」の機能を回復する見直しも込められている。

**ステージ使用例**  
演奏・合唱  
演劇・舞台  
告知・啓発  
野外上映会  
トークショー  
イベント開催

**倉庫（東側面）**  
シタコナー

**問題** 現状、広場をイベントで活用する場合、主催者が自前で備品（什器・機材）を調達せねばならず、加えて、車や人手を費やして他所から運び込む必要がある。その調達・運搬コストを負担できない市民や小規模の団体にはハードルが高い。

**解決** 広場に倉庫を設けて備品を保管し、市民や団体が無料または廉価で借りられ、労せず運べるようにする。また、倉庫の外壁をステージ背景やスクリーンとして活用できるよう整え、備品と組み合わせることで簡便にイベントを開催できるようにする。

**成果** 備品やステージの提供により広場活用が促され、結果、催されたイベントに市民や東街者が集い楽しむ風景が生まれる。

**貸出備品**  
イベント備品  
演出用テント、長机、折り椅子、A型車、フラッグポール、三角コーン、電石  
ステージ備品  
ポータブルステージ、舞台、マイク、マイクスタンド、アンプ、スピーカー、機材等  
展示備品  
パネルスタンド、ポールスタンド、イーゼル

**貸出窓口**  
旧国立駅舎まもる案内所  
従来の旧国立駅舎のスペース（ホール、展示室、事務所）の貸出業務に加えて、車アイデアにおける備品の貸出や広場・ステージの利用申込を受け付ける。  
別室として「旧国立駅舎にたもる・こくふじ市民プラザ」を貸出窓口にも考えられるが、行政性を重視すると「旧国立駅舎まもる案内所」が最適である。

**補足事項**  
広場の用途制限によっては、倉庫を土地に定着させず可動式としたり、設置が予定されている公共トイレと一体化させることで、イベント時はもちろん災害時に必要な電源・水道・給電を兼ねる工夫も考えられる。  
倉庫のデザインは旧国立駅舎の景観と協調し、景観を損なわない配慮が求められる。これは備品（主に演出用テントや長机）のデザインについても同様である。

総評 倉庫も備えた多様な人が集まるステージが提案されている

ステージだけでなくスクリーンなどの備品や機材を収納できる倉庫が近くにあり、車椅子でも移動しやすい多様な人が交流できる場となっているところが素晴らしいです。

## みんなで育てよう、駅からはじまる杜づくり WAKUWORKS 株式会社

【目指す空間づくり】現在の暮らしや景観に合わせてながら、100年前にこの地にあった武蔵野の森のように優しい緑でまちが守られ、老若男女、生き物、緑が共生し、各々が深呼吸できる空間を作る。

【実現方法】地中に水と空気を浸透させ、根の呼吸を助ける

環境再生の手法を活用し、一部は市民参加で実施する。  
【その先に目指していること】国立地域、ひいては武蔵野の自然の再生、地域資源、歴史、文化のつながり、融和を目指す。



**みんなで育てよう、駅からはじまる杜づくり**  
大きな木陰と木漏れ日の下で、子どもも大人も生き生きしている。たねき、もぐら、こもりたち。身近な生き物も杜づくりの大事な一員。種を運び、穴を掘って、木々の根の呼吸を助けている。私たち、人も杜づくりに参加して、みんなで深呼吸できる国立の駅前広場をつくる。

**国立駅前の日常風景**  
多様な生き物生態系が育つ広場と緑地帯の断面イメージ

**国立駅前広場**  
国立駅前広場の断面イメージ

**国立駅前緑地**  
国立駅前緑地の断面イメージ

**これからの**

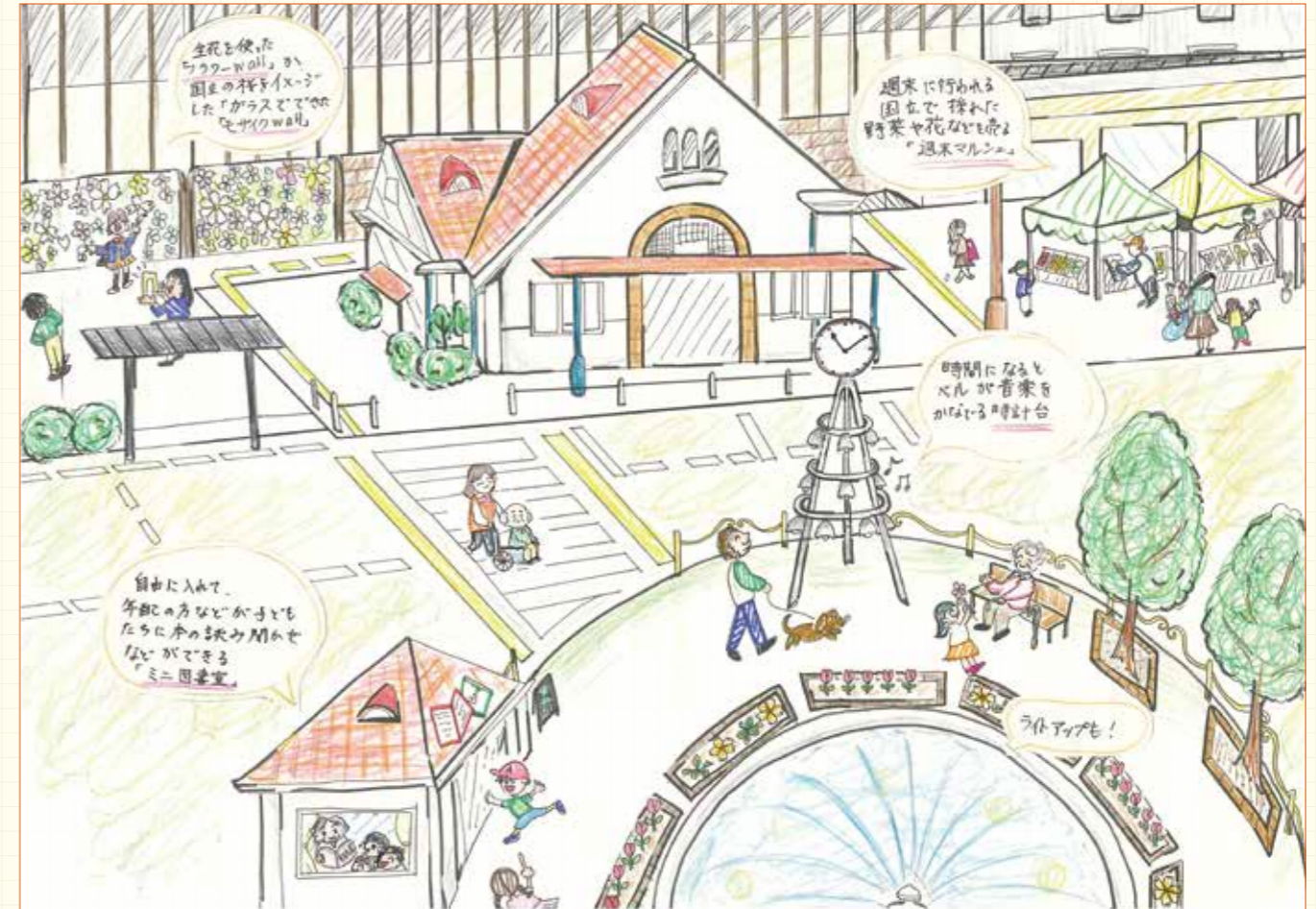
総評 自然との共生のコンセプトが明確に提案されている

自然との共生というコンセプトが明確で、周辺の植生の力を引き出し、グリーンインフラとして新しいまちのあり方が国立らしいと感じます。

# 優秀作品 子ども部門

## 豊かな国立駅舎 五十嵐 愛

人々が1人1人楽しめるような豊かな国立駅舎。



**総評** 多世代で交流しながら駅前空間を楽しめる仕掛けが考えられている

提案者ご自身の年代だけでなく、多世代で交流しながら駅前空間を楽しめるような仕掛けが考えられている良い提案です。

## また来たいな。そんな国立駅 猪股紗英

駅を利用してくれる人や国立に初めて来た人が「国立っておもしろい」と思ってくれるような駅をイメージして考えました。

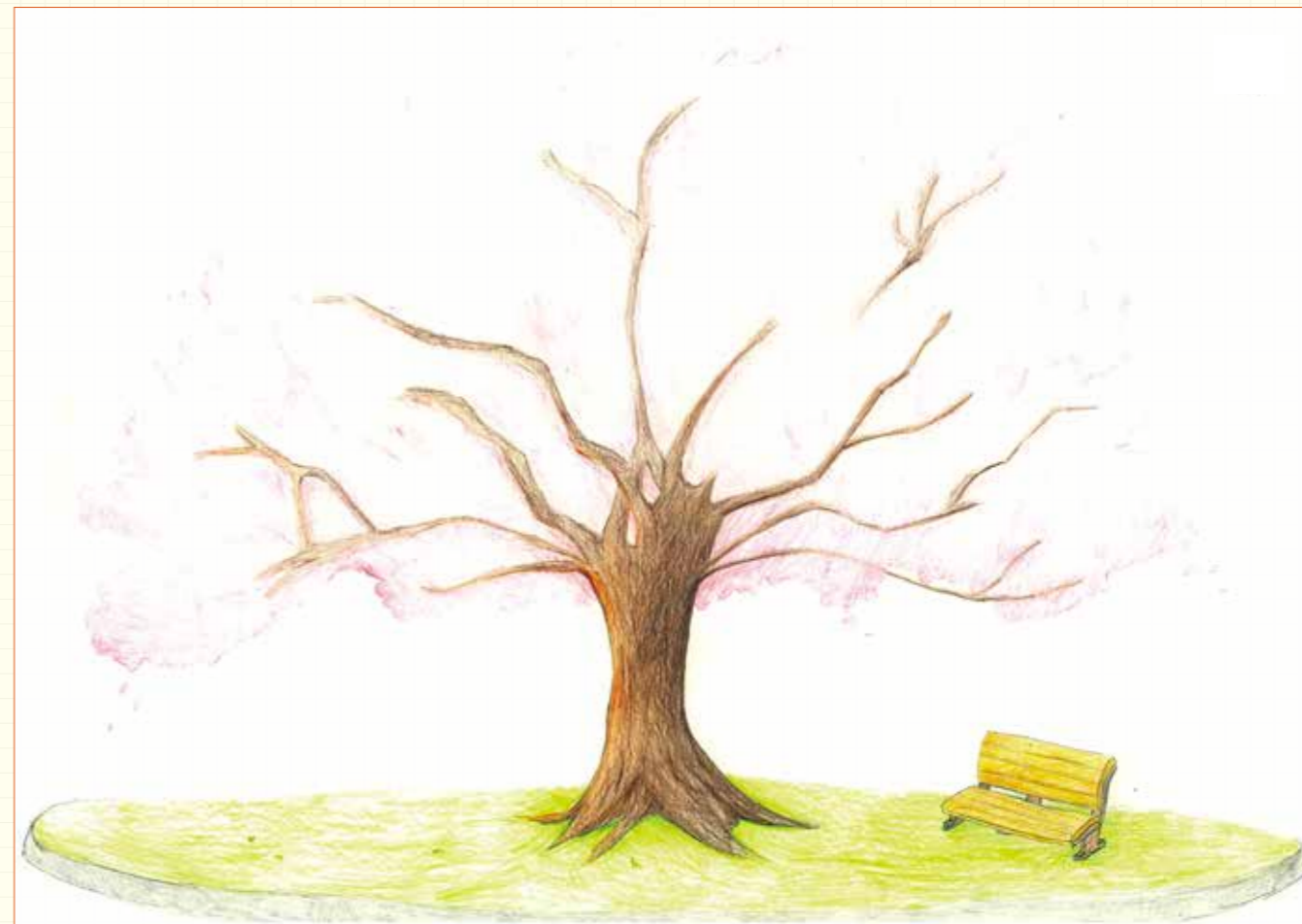


### 総評 駅前で子どもも大人も楽しく過ごす様子が伝わる

国立駅前のそれぞれの場所ごとに丁寧な提案がされていてタイトルもかわいく、子どもも大人も駅前で楽しく過ごす様子が伝わってきます。

## 桜の木 大澤令

自分の中の国立市のイメージを踏まえ、駅前ということで電車に乗って国立市にやってきた人、立ち寄った人たちが感銘を受けるような美しい風景にしたいと考えました。



### 総評 桜だけで国立らしい風景を表現した力強い提案である

美しい風景を桜だけで表現することで、国立らしい駅前の風景を感じさせるシンプルで力強い作品となっています。



## いろいろな生き物 関根 諒大

いろいろなきょうりゅうがいてそれを見る。たとえばティラノサウルスやプテラドンやかっこいいきょうりゅうをみる。



### 総評 特別な使い方をすることで駅前広場が魅力的になる

恐竜が描かれていて、このようなイベントができると、特定の日だけでも特別で多様な使い方ができ駅前広場が魅力的になると感じさせます。

## みんなの森 田中 夢乃

まいにちとおるみちで、お花やちょうちょやとりにであえたらうれしいです。  
えきのまえにも小さな森があるといいなと思います。



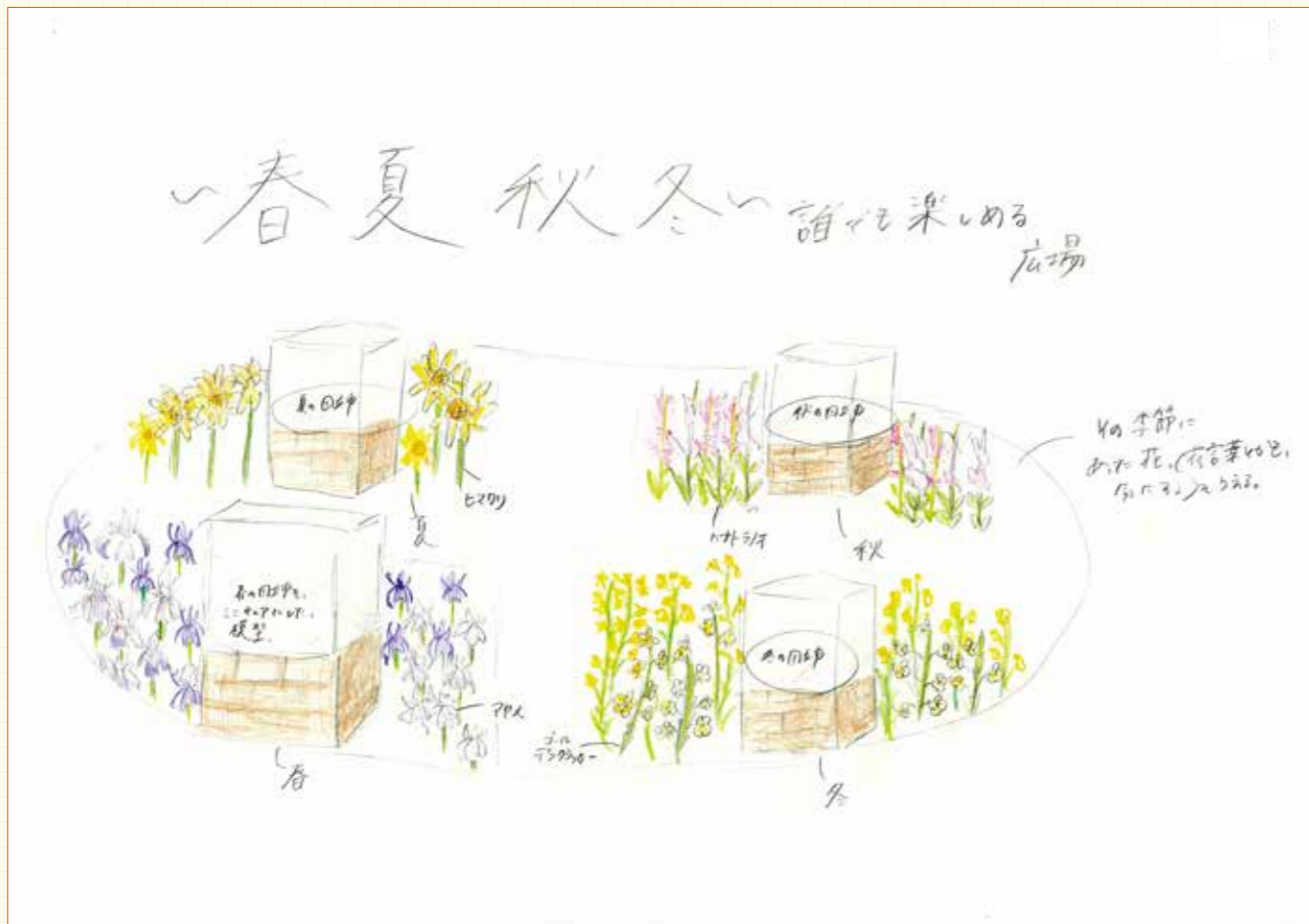
### 総評 誰にとっても不便がないデザインが提案されている

誰でもトイレが大きく描かれていて、誰にとっても不便がないようなデザインとなっていることを評価します。

### 春夏秋冬 外岡 心寧

国立市って、こんな感じだよって、誰でもわかってもらえるよう、模型をおきました。ミニチュアなら、見ててかわいいからです。周りに花をおいたのは、目の見えない人でも楽しめるようにです。春、夏、秋、冬、それぞれにあった花。かすかでも匂いはすると思ひ、花を周りに。花には、花言葉

があって、春にはアヤメ。アヤメには、「希望」という花言葉があって、これからの国立市にぴったりだと思ひそうしました。



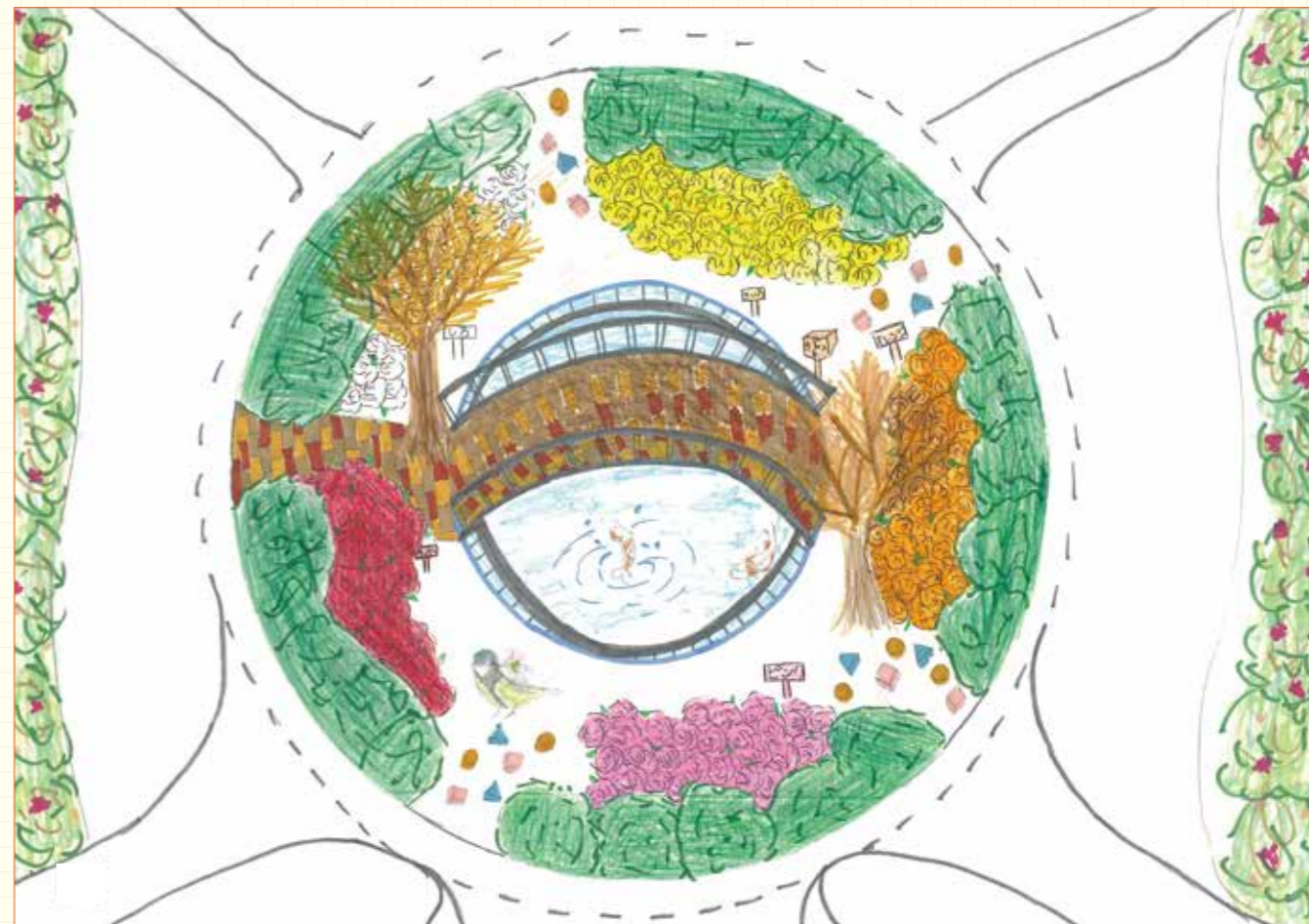
**総評** 目の見えない方にも配慮した四季の花が提案されている

四季の花選びに子どもらしい思い入れを感じ、目の見えない方にも花の香りを楽しんでもらおうという内容に惹かれます。

### お花が広がる国立駅南口 額賀 可玲奈

国立駅の円形公園は、赤、ピンク、オレンジ、黄色、白のバラで飾り、池の上には橋をかけて自然を感じられるようにしました。赤色のバラは「愛情、美、情熱」、ピンク色のバラは「しとやか、上品、可愛い人」、オレンジ色のバラは「絆、信頼、無邪気」、黄色のバラは「友情、平和、愛の告白」、白色のバ

ラは「純潔、深い尊敬、清純」の意味を持っています。障がいがある人でも花の香りや色、自然に親しむことができるようにしました。



**総評** 円形公園の斬新な花の配置や誰もが花を楽しめるアイデアが提案されている

円形公園の花や橋に自然を感じさせる斬新なアイデアや、ソーシャルインクルージョンの視点に立った誰もが楽しめる提案となっていることを評価します。

## わくわくにたち 放課後活動 あおぞらのみんな

国立駅前にどんなものがあったら楽しいだろう？子どもたちがアイデアを出し、みんなで工作用紙や紙粘土、レゴブロックを使って実際に作り上げました。



### 総評 見ているだけで制作のプロセスの楽しさが伝わる

見ているだけ楽しくなる作品です。紙や粘土などのさまざまな素材や多様な人のアイデアが制作の過程で入っていることが伝わり、多様性を認め合うインクルージョンのまち、国立を象徴していることを感じさせます。

## みんなの笑顔に会える国立駅 和田 拓磨

緑がたくさん、緑の中で本を読める。子どもからお年寄りまで一緒に過ごせる駅のブランコから富士山が見える。



### 総評 楽しさが伝わりワクワクする空間を想像できる

ゲームを使って一生懸命に作っていて、くつろげる場所や移動図書館などが置かれ、駅前を楽しめる緑豊かな空間にしたいという思いが伝わってきます。

## 円形公園の時計塔 編

現在も国立駅南口の円形公園にある時計塔を紹介します。

### 時間を大切に！

1979年5月6日、国立駅南口の円形公園に時計塔が設置され、除幕式が行われました。東京国立ロータリークラブが創立10周年を記念して寄贈した時計塔で、高さは6.8m。国立駅・富士見通り・旭通りの3方向から時刻が見えるようになっています。時計塔は今でも国立駅前の同じ場所に立ち、時を告げています。

### 今の時計塔とは少し違う？

設置当時の時計塔には、上部にスピーカーが取り付けられており、午前7時、正午、午後9時にチャイムが鳴る仕掛けになっていたようです。当時の新聞には「周辺500mまで鳴り響く」と記載されており、相当なボリュームで鳴っていたのではないかと推測できます。それだけの音量が出るスピーカーであったため、周辺の交通が混雑した際には、マイクを通じて交通整理もできるようになっていたとのこと。写真に残された当時の時計塔を見ると、国立駅側と大学通り側の南北に向けて、2つのスピーカーが時計の文字盤の上に設置されています。



▲1979年除幕式時の時計塔

### 時計の取り替え

現在の時計塔と、設置当時の時計塔を見比べると、時計の形がかなり変わっているように見えます。長年の風雨にさらされて針が狂う事も多くなったことから、国立市では時計を太陽電池式のものに替え、夜間でも見えるようにライトを当てるなどの改修を行ったことが、1988年の市報に掲載されています。市報掲載の写真が夜間に撮影されているため明確にはわかりませんが、時計上部に設置されていたスピーカーは改修後にはなくなっているように見えます。周辺500mまで鳴り響くと言われていたチャイム音は、残念ながら設置後10年を経ずに聞くことが出来なくなっていたとみられます。



▲時計塔の時計比較

【左】1979年除幕式

【右】2021年10月撮影



▲1988年の市報(第477号)に掲載された写真

### 時計塔の製作者 関敏氏

この時計塔は、国立生まれの石の彫刻家、関敏氏の作品でもあります。時計塔創設当時の新聞報道では、時計塔の制作について、「双葉からクキが伸び花が咲くという、草花の生長する過程を象徴化した」「空間の広がりをおこのフォルムに託した」と、制作者の関氏が説明したという内容が報じられています。また、時計の部分(草花の花にあたる)は、当初は丸く作る予定であった、と関氏本人が語っています。しかし費用面の問題から、結果的に四角い形状になったようです。

石の彫刻家として知られた関氏の作品は、国立市内のいたるところで見ることができます。その一つに、谷保天満宮の拝殿に向かう参道脇にある「座牛」があります。1973年に奉納されたもので、約3トンの原石から彫り出され、制作期間はおよそ4ヶ月に及んだといわれています。また、東京国立ロータリークラブの創立20周年記念事業として、くにたち市民芸術小ホールの前庭に寄贈された作品「<sup>ひだ</sup>襷」も関氏の作品です。国立市内の関氏の作品を、制作の意図や作品の歴史を踏まえて鑑賞すると、新たな気づきがあって面白いかもしれません。



▲谷保天満宮の「座牛」



▲くにたち市民芸術小ホール前庭にある「襷」